

みんなのた場

仲間(85)

卓を囲んで心身イキイキ 仲間たちと和気あいあい

健康マージャンクラブ

市老人福祉センター寿楽荘を拠点に活動する「健康マージャンクラブ」(三浦正治代表)は健康増進と会員の親睦を深める目的で、平成24年6月に発足しました。主に60歳以上の市民が対象で、毎週水曜日に開いています。毎回約30人が参加し、和気あいあいと卓を囲んでいます。

一般に不健康なイメージを持たれがちなマージャンですが、健康マージャンは「お金を賭けない、(お酒を)飲まない、(たばこを)吸わない」を原則に、「楽しむ場」として親しまれています。役作りや点数計算で頭を

使うほか、牌をかき混ぜることで指先の神経を刺激するため、老化防止にも効果があるといわれます。また4人で卓を囲むので、仲間との会話を楽しめることも魅力の一つです。

同クラブは今年6月で発足から3年が経ちました。代表の三浦さん(70)をはじめ、会員の多くは、震災の津波で家族や自宅、職場を失う等辛い経験を背負う人たちです。

三浦さんは「狭い仮設住宅に閉じこもると心も塞ぎ、心身の健康に悪影響を及ぼしかねません。震災で溜まった心の負担を少しでも軽減す

る場にたくたく立ち上げました。今では、会員の皆さんの生きがいにもつながっています」と話します。会員の皆さんも「仲間と卓を囲み、マージャンを打つことで荒んだ心が洗われ、前向きな気持ちになれます」と口々に語ります。

湊地区の自宅と職場を津波で失った80代の男性会員は「生きる気力を失いかけていた時に健康マージャンに出会いました。世間話をしながら競うことで張り合いも出て気持ちも明るくなれました」と振り返ります。クラブ会員から元気をもらったというこの男性は広瀬地区に自宅を再建し、新たな生活をスタートさせました。

三浦さんは「今後もマージャンを楽しめる場としてクラブを継続させていきます。興味のある方は一度、寿楽荘にお越しください。初心者や女性の方でも、親切に指導をいたします。もちろん見学も歓迎します」と呼びかけていました。

健康マージャンクラブは毎週水曜日上午10時から午後4時半まで開催しています。



▲みんなで世間話に花を咲かせることも健康マージャンの魅力の一つです

キラッとパチリ

「復興見届けたい」と派遣延長

復興支援で派遣されている職員の方から今回は江川宏昭さんを紹介いたします。技術主幹の江川さんは、愛知県刈谷市から平成26年



復興事業部 市街地再開発整備課 江川宏昭さん 43歳 愛知県刈谷市から派遣

度には派遣されました。同市は24年度から職員を派遣して、江川さんが3人目になります。「少しでも役に立ちたい」と志願しました。業務は市街地再開発を行って

再開発を行って再開発を行う際の協議調整や補助金申請等です。これまで中央三丁目1番地区、立町二丁目5番地区、松川横丁を担当し、「完成が見たい」と当初1年間だった派遣期間の1年

延長を申し出ました。「やるべきことはやる」が信条で、刈谷市でも長く再開発に携わってきました。「復興にはスピードが必要ですが、再開発は建物が出てからが本場のスタートになりますので、きちんとした計画が大事です。まちの核となり、活性化の一助になればうれしいです」と真剣です。

これまでで印象に残っているのは、多くの人出でにぎわった昨年の川開き祭りだそうです。「復興が本格化し、空き地ばかりだった風景が変わってきました。石巻は海も山も近く、食べ物もおいしい。家族を案内したいですね」と笑顔で語っていました。

文化財(たんぽう) 84

羽黒下遺跡 発掘調査について

石巻市教育委員会 生涯学習課

市教育委員会では、平成26年11月から、牡鹿小浜地区の防災集団移転に伴い、羽黒下遺跡の発掘調査を実施しています。

羽黒下遺跡は、牡鹿半島南西部の給分浜に面した丘陵上にある、縄文時代前期から中期(約7000年から4500年前)を中心とした集落跡です。遺物(包含層(ごみ捨て場)が3カ所形成されており、多量の縄文土器や石器、土偶等が見つかっています。

縄文土器出土状況

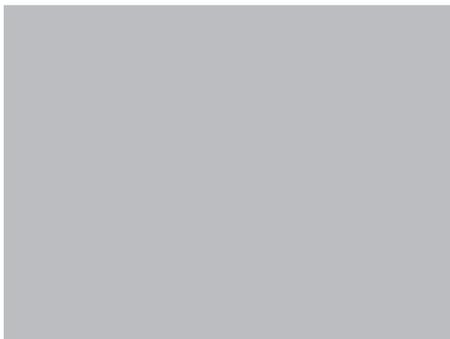


部の調査であり、縄文時代前期から中期の良好な資料がたくさん出ていることから、当時の生活の様子が分かります。

当遺跡の北400mには、以前にも紹介しましたが平成24・25年度に発掘調査を行った中沢遺跡があり、こちらでも多くの遺構遺物が出土しています。そして、今後も続く牡鹿半島の発掘調査により、この地域の縄文



▲羽黒下遺跡全景(東から)



まちの話題



雄勝地区

6月28日(日)
おがつ店こ屋街

新鮮なウニに 長蛇の列

雄勝自慢の新鮮なウニを格安で提供する恒例の「おがつウニまつり」には、県内外から約1,500人が来場し、直売用に用意した2.3トンのウニが、またたく間に完売するほどの大盛況でした。会場にはホタテやカキ、ホヤ等の海産物の炭火焼や井ぶりを販売する出店が並んだほか、ステージイベントもあり、訪れた皆さんは楽しい時間を過ごしました。



桃生地区

6月14日(日)
桃生公民館

地域挙げて 芸能大会

地域を挙げた舞台イベントとして恒例となっている第38回桃生地区芸能祭が盛大に開かれました。桃生中学校総合文化部による吹奏楽演奏でにぎやかに開幕した後は、地域で活動している皆さんがカラオケや舞踊、バンド演奏、伝統芸能のはねこ踊り等のステージを繰り広げ、会場を沸かせました。フィナーレではプレゼントが当たる大抽選会も行われ、訪れた皆さんは楽しい時間を過ごしました。



牡鹿地区

7月2日(木)
網地白浜海水浴場

中学生たちが 海水浴場清掃活動

牡鹿中学校の全校生徒が、7月17日(金)の市営網地白浜海水浴場の海開きを前に清掃活動を行いました。「地域の皆さんに少しでも笑顔になってほしい。少しでも役に立ちたい」との思いで3年前から取り組んでいる「笑顔創造プロジェクト」の一環として実施したもので、生徒たちは隅々までゴミや空き缶等を探して回収しました。海水浴場の開設期間は8月23日(日)までです。



石巻地区

7月5日(日)
石巻工業高校グラウンド

心込めた支援の ボール寄贈

石巻高校、石巻工業高校、宮城水産高校の硬式野球部に大阪ガス(株)から修繕ボールが各200個贈られました。同社硬式野球部は、糸の切れたボールの縫い直しを兵庫県西宮市の福祉作業所に依頼し、修繕されたものを被災地に届ける「ハートボールプロジェクト」を進めています。贈呈式では、各校主将たちが「多くの人に支えられて野球ができることを感じられます。プレーで感謝を伝えたい」と語りました。

河北地区

6月14日(日)
飯野川橋上流河川敷

水害から住民と 地域を守れ



市消防団の水防訓練が行われ、河北、北上地区の消防団員と消防署員ら124人が参加して水害を未然に防止し被害を最小限に抑えるための技術習得に努めました。川の堤防に亀裂が入り水害が発生したことを想定した訓練では、各地区団から選抜された団員が10~20人の隊に分かれ、決壊を防ぐための積み土のう工法等の3つの水防工法をきびきびした動作で実践しました。

河南地区

6月21日(日)
遊楽館

優勝目指し 全力でプレー



河南地区分館対抗球技大会が、ソフトボールの部とビニールバレーボールの部の2部門で行われました。9月に開催される「宮城ヘルシー2015ふるさとスポーツ大会石巻地区大会」の予選も兼ねており、今回は各競技に9チームが出場しました。どの競技でも選手たちは真剣な表情で試合に臨み、一戦一戦をあきらめることなく全力でプレーしていました。

北上地区

6月26日(金)
北上小学校

北上川源流の 友達と交流



北上川の源流の岩手県岩手町立水堀小学校と北上小学校の5年生同士の交流会が行われました。川を通じて親睦を図るとともに郷土愛を育もうと、旧吉浜小と水堀小で15年以上前から行われており、北上小でも継続しています。児童たちは神割崎での磯遊び等の後、体育館で特産のヨシを使ってペン作り体験を行い、出来上がったペンで七夕の短冊に願いごとを書きました。

石巻地区

6月21日(日)
総合体育館

音楽で祝おう 仙石線再開



JR仙石線の全線再開を記念した「仙石線開通を歓喜の音楽に」は、佐々木和夫石巻駅長の「復興と夢を音楽に乗せて出発進行」の合図で開幕した後、市内小中学校や市民団体の約450人が列車にちなんだ合唱や演奏で客席を楽しませました。吹奏楽、ジャズ、伝統芸能等のステージが続き、フィナーレは参加者総出演の「ぐいぐい走れ仙石線」が披露されました。